



西中学校通信

第3号

自主的に考え、正しく行動できる生徒

<自立と自律>

3つの篩（ふるい）

篩（ふるい）とは、写真のように底が網目になっていて、網目よりも小さいものが下に落ちるようになっています。

「篩（ふるい）にかける」という言葉があります。篩（ふるい）という道具をつかって選り分けるという意味ですが、転じて、ある基準をもって判断するという意味でも使われます。



ある小学生の女の子が、「おばあちゃん！聞いて！聞いて！」と言っておばあちゃんの家へ飛び込んできました。

おばあちゃんは、「落ち着いて」と笑って言うと、続けて、次のように言いました。

「あなたの話したいことを、まず、3つの篩（ふるい）にかけてごらんください。話すのは、その後にしたらどうかしら」

女の子は、「3つの篩（ふるい）って何？」と聞きました。

おばあちゃんは、「そうね。3つの基準で考えてみて、それにひっかかるかどうかを確かめるのよ。」

「最初は、【真実の篩（ふるい）】にかけてみましょう。あなたが話そうとしていることは、本当のことなの？」

女の子は、「他の人から聞いた話だから本当のことかどうか分からない。」と答えました。

おばあちゃんは、「そうなの。本当かどうか分からないのね。次は【善悪の篩（ふるい）】にかけてみましょう。あなたが話そうとしているのは、良い話なの。どう？」

女の子は、「いいえ。良い話じゃないわ。正直に言うと、とっても嫌な話よ。」と答えました。

「そうなの。」と、おばあちゃんは言いました。「最後に、【必要の篩（ふるい）】にかけてみましょう。あなたが話そうとしていたことは、本当かどうか分からない、良い話でもないのね。では、その話は、だれかに話をする必要があるのかな？」

女の子は、「さあ、必要かどうか・・・」と言って黙ってしまいました。

おばあちゃんは、微笑みながら「あなたが私に話そうとしていることが、本当のことかどうか分からず、良い話でもなく話す必要もないのであれば、その話は忘れてしまいなさい。誰かの心を傷つけないように」

入学・進級して一ヶ月以上が経ちました。遠慮がちであった人間関係も、そろそろ活発に動き出す頃かもしれません。

他の人に興味があることは良いことかもしれませんが、興味本位の無用な噂話や陰口が原因となり、人間関係のトラブルを引き起こすことが多くあります。

現在では、SNS等での書き込みや誹謗中傷が大きな問題となっていますが、これも噂話や陰口の延長線上のものと考えることができます。

「本当のことなのか」「真実は何か」「悪い話を広げることで、誰か喜ぶ人はいるのか」

「自分が拡散することで、その当事者の立場はどうなるのか」

自分の頭でしっかりと考え、正しく判断できる人でありたいです。

(裏面あり)

制服見直しの進捗状況について

昨年度から、本校制服の見直しについて学校運営協議会を中心に検討してきました。一昨年度途中からの制服の大幅値上げを機に、検討してきましたが、昨年12月に、お知らせしたとおり、保護者の経済的負担を最大限に軽減することをコンセプトとして、ブレザー、スラックス、スカートのデザインは変更せず、リサイクルを可能とし、アフターケアに費用がかからないような素材の導入、夏服・冬服の区別をやめたオールシーズン素材の導入、女子のベストにニットベストを導入することでの価格の削減、女子のスラックスを導入し、スカートとの併用・選択を可としました。また、ネクタイ・リボン・ボタン等は、デザインと価格の両面から見直します。

この方針が、昨年12月に決定し、その後、メーカーコンペに参加希望があるかどうかを、関東地方に本社・支社を置く20数社の制服メーカーに案内を出すとともに、本校ホームページ上でも公募しました。その結果、10社近くが本校での説明会に参加し、そのうちの5社が、新しい制服の提案書を提出しました。

今後は、1次審査として、5月中に、5社の提案書を検討し、3社程度を選考します。その後、選考されたメーカーへ試作品等の提出とプレゼンテーションを実施してもらい、最終審査を、7～8月に実施する予定です。8月中には、選考されたメーカーと製造協定を締結していきます。

教員の長時間勤務について

保護者の皆様もニュース等でご存じのことと思いますが、教員の長時間労働が全国的に大きな問題となっており、本校教員の状況も例外ではありません。

一般的に過労死ラインと言われているのが「月80時間以上」の超過勤務ですが、昨年度の本校の教員の実態では、このラインを超える者が数名いるという状況です。

現在、本校の教員をはじめ全国の教員は、「子供たちのため」という使命感で、長時間の勤務にも耐えている状況にあります。学校の中は、人と人との関係によって成り立っているため、効率化、合理化できない面もあり、業務改善がなかなか進まないという状況です。

校長としては、現状が、看過することのできない状況にまできていると感じておりますので、今後、教職員の負担軽減、超過勤務の削減の観点から、学校関係の様々なことを見直していくつもりでいます。

教員の負担が軽減され、教員本来の業務である生徒たちとの関わりの時間を十分に確保できるようにしていきたいと願っています。

教職員の負担軽減についてのご理解とご協力をお願いします。